



介護の現場から



母は年が明けると満96歳になります。親類の中では一番の長寿となりました。本人は食欲があり元気そのもので、ある2つのことを除けば本当に100歳まで長生きしそうです。一つは、加齢黄斑変性症という目の病気で両目の失明と重度のアルツハイマー型認知症を患っています。兄夫婦の家で約10年過ごしましたが、今は兄夫婦の家から車で10分程のところにある特養に入居しています。今年の初めに兄夫婦に無理を言って母の所へ連れていってもらい様子を観てきました。母は私たちの事を覚えてくれているのか定かではなかったです。また、喜んでくれているのかも判らなかったのですが、そこには確かに私を育ててくれた母の姿がありました。兄がいたずらで母の足の裏をこそばすと、やめろ、こそばいかとのやりとりに兄と一緒に苦笑しました。部屋は広くて大きい場所にポツンと一部屋で、一日中そこで過ごしている様子でした。差し入れたミカンを1個食べてもらいその場を後にしました。そこで働くスタッフやケアマネにも感謝の念は尽きませんが、母の面倒を悪戦苦闘しながら見て、一生懸命に生活をしてくれた兄夫婦への感謝の気持ちを、この場で伝えて締めたいです。勿論母には100歳迄長生きして欲しいと思っています。

(有料老人ホーム共生の里：S介護員)

